

目寄れや滑脱は、薄地の製品やデリケートな製品などに生じやすい現象です。
今回は、着用によって生じる目寄れの事例を紹介します。

監修／クリーニング総合研究所

衣類の状態

クリーニング後、袖の付け根が伸びた感じになって仕上がったときの申し出があった。

する可能性がある。

目寄れ

無理な力が加わって織糸が移動する現象のこと。

織糸がずれて生地が波打ったようになると、織目が大きく開いて穴があいたように見えることがある。

原因

着用による力が加わることで、織糸が移動する目寄れが生じたもの。

着用中などに局部的に力が加わる袖の付け根付近などに生じやすく、クリーニングでさらに拡大

目寄れと滑脱の違い

目寄れと同様に織目が開いたよ



燃りのないたて糸を使用したブラウス

うな状態になる事故には、「滑脱」がある。

滑脱は、縫い目部分に力が加わることで織目が開いたり、縫い代から織糸が引き抜かれたりする現象。目寄れと同様に、浮き糸の多い生地や密度の粗い生地、撚りの少ない糸を使った滑らかな生地などに生じやすい。

を受けやすい部分

事故の防止対策

アパレルは、浮き糸の多い生地や密度の粗い生地などを使用する場合は、滑脱試験で滑脱抵抗力を確認し、必要に応じて取扱い等の注意表示を行うこと。

また、目寄れの発生しやすい素材の製品を企画する場合には、着用時のゆとり量を考慮する。フィット性のあるものや切替のあるデザインは、着用により変化するということについて理解を求めること等も必要。
クリーニング業者は、持ち込まれた時点で目寄れが生じている場合、クリーニングによって拡大することがあるため、受付での検品を十分に行うこと。

事故が生じやすい素材や部位

●絹やレーヨン、*減量加工されたポリエステルなどの素材

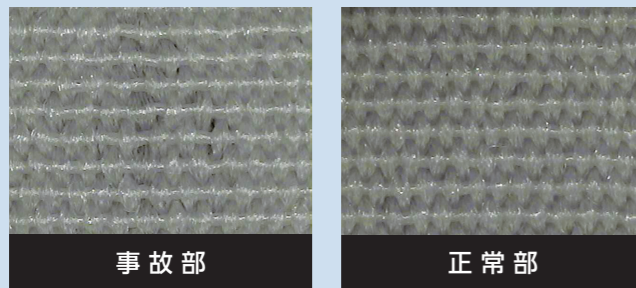
*減量加工：ポリエステルの表面を薬品で溶かし、絹のような風合いを持たせる加工方法

●サテン地など浮き糸の多い生地や密度の粗い生地、撚りの少ない糸を使った滑らかな生地

●着用の際、ゆとり量が少ない場合の上腕部

●シヨルダーバッグ等の摩擦作用

顕微鏡写真



事故部

正常部

たて糸がズレて織目が開いている



袖の付け根部分に波打ちが生じている

●「衣料管理情報」は全ク連ホームページからPDFをダウンロードいただけます。
全ク連 HP <https://www.zenkuren.or.jp>
「お知らせ」 → 「衣料管理情報」

素材
特性
に注意

■品名…ブラウス
■素材…ポリエステル100%

■取扱表示…40 [洗濯マーク] [乾燥マーク] [アイロンマーク] [漂白マーク] [縮みマーク]

■処理方法…ウエットクリーニング、加熱静止乾燥、ハンドアイロン仕上げ